

2020年10月02日 3面

文字サイズ 小 中 大 ブックマーク  印刷 

大林道路／全社用車への衝突被害軽減ブレーキシステム導入が完了／計画を3年前倒し



衝突被害軽減ブレーキシステムを導入した社用車

大林道路は約600台の社用車に衝突被害軽減ブレーキシステムを導入した。全社用車への導入は2023年までを予定していたが、業務中の交通事故を根絶するため計画を前倒した。道路舗装工事では社員が高速道路上などにある現場まで運転することが多い。交通事故防止の観点から計画を繰り上げた。

同社は社用車に搭載した衛星利用測位システム（GPS）のデータを活用し、社員の安全運転指導を実施している。社用車の更新時に同システム装着車を採用していた。システムを搭載していても走行状況などによって、対象物を正確に認識しないケースもある。同社は引き続き安全教育として安全運転意識の向上といった取り組みを強化する。

安全への取り組みでは「走行中はスマホの操作・注視をしない」「眠気を感じたら休憩する」など、「安全運転基本ルール」を記載したステッカーを全車両に貼り付けて注意喚起している。交通事故の根底にある「運転者のヒューマンエラー、不安全行動」を防止する目的で、運転中刻々と変化する交通状況を声に出し安全意識を高める「コメンタリー運転」も推奨。事故防止と運転マナーの向上に努めている。

記事ID : 3202010020302

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます